

9. 地区研究会及び次期大会開催地のお知らせ

木研関東地区研究会 2月例会

----- 家族農業経営と女性 -----

1 農業・農地・相続法と女性 --- 家族協定を中心に ---

宮崎 俊行 (日本大学)

2 農村家族の変容と農村女性 --- 山形県庄内地方の場合 ---

永野 由紀子 (東北大)

日時： 1994年2月5日（土）

13時00分～17時00分

会場： 中央大学駿河台記念館 第570号室

次期大会（1994年11月2～3日）開催地について

（大会事務局 桜山女学園大学 鈴木俊道・山本正和）

東海地方は戦後の農村研究においては、安城農業の展開や渥美半島の商業的農業或是志摩の真珠養殖についての研究等近代的側面についての画期的な議論はありました。それ以外には全国レベルでの持続的な論議の焦点になることの少ない地域でした。それだけに今回図らずも大会開催の任務が与えられことに対して、学界にいかなる課題を提示してきたかを考えるにつけ、忸怩たる思いと緊張感を禁じ得ません。当地方での大会開催は、愛知大学の方々による三河・蒲郡大会以来10年ぶりと聞いております。今回は、同じ東海地方でも前回の三河地方とは違う尾張の知多半島で行なうことにより、元来、文化的な集中度の弱くて、地域構造においても多極分散的と言われる当地の多様な相を、会員の方々に認識していただく機会となれば幸甚に思います。

大会会場となる愛知県南知多町のある知多半島は、伊勢湾の東岸で名古屋市から伊勢湾口部へ南北に延びており、当町は名古屋市内からは鉄道（名鉄）、自動車のいずれも一時間半ばかりの距離にあります。半島突端部の師崎からは、西の対岸・渥美的伊良湖へも、また東部の三重県鳥羽へもフェリーで一時間ばかりの海上交通の拠点となっております。知多半島はこうした地理的特性から、近世期では醸造品等の海運業を中心として栄えていたことが近年の研究で明らかにされてまいりました。近代以降は目立った展開はせず、沿岸漁業とミカン栽培と常滑焼の窯業が主たるものでした。現在では、それに加えて温暖な気候と海浜資源を活かした観光地としての位置づけが強くなつたようです。その点においては、今日の半島地域に共通する地域課題の困難性を持っているようです。会場は南知多町総合体育館の会議室を使用する予定です。

何分不慣れな私どもですが、学会の実り多い論議の場となるように努力致したいと存じております。今後、計画が具体化する段階でより詳しく案内致しますので、なにとぞ多くの皆様の参加下さることをお願い申し上げます。